

科目名	現代社会の病理	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	現代社会は変化の中で様々な問題があらわれている。講義では、そのような「社会の病」を扱う視点と、表面的な現象の背後にある社会・文化構造的な原因に目を向けることで、出来事の裏側を探ることのできるような思考を鍛えることを目指します。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・何が「病理現象」とされるかについての相対的な視点が身につく。 ・報道などで扱われる出来事の裏側の社会的な背景に目を向けて考えることができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会病理という用語の意味するところ (2) 構成的視点で作られる「社会病理」 (3) 社会病理学における諸理論 (1) コントロール理論、分化的学習理論 (4) 社会病理学における諸理論 (2) ソーシャル・ボンド理論 (5) 社会病理学における諸理論 (3) ラベリング論 (6) 犯罪統計の見方 (1) (7) 犯罪統計の見方 (2) (8) 犯罪統計の見方 (3) (9) 「青少年問題」としての社会病理現象 (10) 社会問題構築論の立場から考える「有害マンガ」問題 (11) 現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題 1 (12) 現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題 2 (13) 現代社会における自殺の背景 (14) ホームレス増加の背景 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodleでの課題を遂行することが復習になります。
使用教材・参考文献	<p>【教】特に指定しない。講義中で配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。</p> <p>【参】 鮎川潤 『少年犯罪』 平凡社新書 2001年 ISBN4-582-85080-4</p> <p>【参】 矢島・丸・山本編 『よくわかる犯罪社会学入門』 学陽書房 2004年 ISBN4-313-34008-4</p>	
成績評価方法と基準	授業で扱った「病理現象」の背景についての理解度を評価基準とし、筆記試験70%講義中で指定する文章読解課題10%、Moodle上で課題提出20%の割合で評価を決定します。	
備考	読書レポート（文章読解課題）の内容を成績評価の対象とする。	